第三部　力女

witch

マリツファにとって、「お姉様」と言えば、スーフィンのことである。

witch

しかし、
実際には耳の鼓膜を
押さえることはなく、
　拳をつかんで、
体を震わせていた。

witch

「用というのは、何だ」
まるで、カストラートのような声色を男は発した。

「それでも悲しみ止らず涙流すなら、涙の代わりに塩をふれ」

witch

「泣くな。それとも、涙の代わりに塩をふってくれるか」

witch

「今のあなたの話よ。
それを聞かせれば、
その人はもっと、
あなたの子供の頃の話を聞きたがるわ。
その人があなたのことを本当に好きになった頃、
あなたに自分の子どもの頃の話をするのよ」

witch

「力有る者であっても、
無意識に偶然、
力を構築することがある。
それを偶然でなくしたのが、
魔法陣の概念を生み出した、
我らが師の祖である……」

witch

その男に背広を着た若い男が、近づいて声をかけた。
「その金髪には、右手にあると、聞いている」

witch

　女は花束を落とした。百本近い百合の花が女の足元を中心とした、花を地面に描く。

witch

「尊くも、
多くの者とみ力を導かれるお方。
どうか、
この者の毒の汚れを清め、
お救い下さい」

witch

「ねぇ、この種、何かわかる」
見覚えのあるものであるから、
マリツファは即答する。
「椿の種」

witch

The man of the overlooking

第三部　力女

pixiv member's only promotion jump>http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=241771